


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成30年 2月14日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第3号	質問議員	12番	渡辺良孝 
件名	1. (仮) 山北スマートIC周辺活性化計画の策定は 2. (仮) 小田原・甲府線計画の再構築を			
要 旨				
<p>1. (仮) 山北スマートIC周辺活性化計画の策定は 川西地区における新東名のIC構想の検討を開始し10年が経過した。設置が決まるまで町では、国、県、中日本高速道路(株)との勉強会、更には、国土交通省、神奈川県を始め関係機関への積極的な要望活動を行ってきた。当然、町議会も要望活動を行ってきている。</p> <p>平成26年6月に、国から新たに「スマートIC整備事業制度実施要項」が示され、国、県、県警、中日本高速道路(株)、町観光・商工関係団体、更に連合自治会から成るメンバーで「(仮)山北スマートIC地区協議会」を設置し、地元対策などを協議し、結果を持って国への要望活動を行ってきている。</p> <p>そのようなことから、国からの、新東名高速道路の付帯施設としてのスマートICの連結許可は、地域の活性化にいかに関係して行くか、課題が課せられていると思ひ質問をする。</p> <p>(1) 町が(仮)山北スマートICの設置の必要性についての事前説明では、①観光振興への寄与、②救急医療サービスの向上、③災害時の代替ルートの確保、④工業団地などへのアクセスの向上、⑤広域的な地域活性化への期待、の5項目を挙げている。</p> <p>私は、平成27年6月議会で、広域幹線道路計画の策定の関連から、スマートIC周辺の活性化について一般質問をした。そこでは、「詳細な全体像が見えた段階で(仮)山北スマートIC周辺活性化計画の策定に取り組む」との町長の答弁であった。</p> <p>当時から、既に2年半経過し現在は新東名の本線工事も本格化し、スマートICについては、中日本高速道路(株)との「工事等に関する細目協定」の協議も済み、この3月に締結予定とのことである。そのような状況から</p>				

想定すると、既に全体像は見えてきているのではないか。

スマートＩＣの活用による企業等の誘致には、将来を見据えた周辺の土地利用の計画により、地元町のやる気をいかに対外的にアピールするかに掛っていると見える。

そのようなことから「(仮)山北スマートＩＣ周辺活性化計画」の策定は喫緊の課題と思い、町長の考え、更に取り組みの現状はどうか。

２．(仮)小田原・甲府線計画の再構築を

スマートＩＣの設置予定場所は清水地区で、山北町の東西のほぼ真ん中になる。丹沢湖へのアクセス、更には南足柄から箱根に繋がる県道「南箱道路」も来年度は本格的に工事が始まり、多方面へアクセスできることが期待される位置にある。そのようなことから将来を見据えて、町が進めている「県境を越えた広域幹線道路の整備推進」として、仮称「小田原・甲府線」を、この山北スマートＩＣを受ける軸に、しっかりと位置づけておくべきと思うが。